

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成28年9月23日 (2016.9.23)

【公開番号】特開2016-135812(P2016-135812A)

【公開日】平成28年7月28日 (2016.7.28)

【年通号数】公開・登録公報2016-045

【出願番号】特願2016-87702(P2016-87702)

【国際特許分類】

A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	9/06	(2006.01)
A 6 1 K	9/107	(2006.01)
A 6 1 K	9/127	(2006.01)
A 6 1 K	9/70	(2006.01)
A 6 1 K	31/4985	(2006.01)
A 6 1 K	31/506	(2006.01)
A 6 1 K	31/519	(2006.01)
A 6 1 K	31/53	(2006.01)
A 6 1 K	47/02	(2006.01)
A 6 1 K	47/06	(2006.01)
A 6 1 K	47/10	(2006.01)
A 6 1 K	47/12	(2006.01)
A 6 1 K	47/14	(2006.01)
A 6 1 K	47/18	(2006.01)
A 6 1 K	47/28	(2006.01)
A 6 1 K	47/34	(2006.01)
A 6 1 K	47/36	(2006.01)
A 6 1 K	47/42	(2006.01)
A 6 1 P	15/10	(2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K	45/00
A 6 1 K	9/06
A 6 1 K	9/107
A 6 1 K	9/127
A 6 1 K	9/70
A 6 1 K	31/4985
A 6 1 K	31/506
A 6 1 K	31/519
A 6 1 K	31/53
A 6 1 K	47/02
A 6 1 K	47/06
A 6 1 K	47/10
A 6 1 K	47/12
A 6 1 K	47/14
A 6 1 K	47/18
A 6 1 K	47/28
A 6 1 K	47/34
A 6 1 K	47/36
A 6 1 K	47/42
A 6 1 P	15/10

【手続補正書】

【提出日】平成28年8月5日(2016.8.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

被験体の皮膚への局所送達のための組成物であって、
イオン性塩を含む適さない生物物理学的環境と、
キサンタンガムを含む安定化ポリマーと、
プロピレングリコールと、
ポリソルベート 20 を含むポリソルベート界面活性剤と、
5 型ホスホジエステラーゼ阻害剤および / またはその塩と
を含む、組成物。

【請求項 2】

一酸化窒素供与体をさらに含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

L - アルギニンおよび / または L - アルギニン塩をさらに含む、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

前記一酸化窒素供与体、前記適さない生物物理学的環境、前記キサンタンガム、前記プロピレングリコール、前記ポリソルベート界面活性剤、ならびに前記 5 型ホスホジエステラーゼ阻害剤および / またはその塩のそれぞれが、送達ビヒクル内に含有される、請求項 2 または 3 に記載の組成物。

【請求項 5】

40 の温度に少なくとも約 1 日間暴露された場合に安定である、請求項 1 から 4 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 6】

クリームである、請求項 1 から 5 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 7】

ゲルである、請求項 1 から 5 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 8】

経皮パッチ内に含有される、請求項 1 から 5 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 9】

前記一酸化窒素供与体が、前記組成物の少なくとも約 0.5 重量%の濃度で存在する、請求項 1 から 8 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 10】

前記適さない生物物理学的環境が、角質層を経由して前記 5 型ホスホジエステラーゼ阻害剤および / またはその塩を運ぶことができる、請求項 1 から 9 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 11】

前記イオン性塩が、前記組成物の少なくとも約 5 重量%の濃度で存在する、請求項 1 から 10 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 12】

前記適さない生物物理学的環境が、塩化ナトリウム、塩化コリン、塩化マグネシウム、および塩化カルシウムからなる群から選択される 1 つまたは複数のイオン性塩を含む、請求項 1 から 11 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 13】

前記適さない生物物理学的環境が、少なくとも約 0.25 M のイオン強度を有する、請求項 1 から 12 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 14】

前記適さない生物物理学的環境が、少なくとも約 1 M のイオン強度を有する、請求項 1 から 13 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 15】

前記被験体がヒトである、請求項 1 から 14 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 16】

前記 5 型ホスホジエステラーゼ阻害剤がアバナフィル、ロデナフィル、ミロデナフィル、タダラフィル、バルデナフィル、ウデナフィル、アセチルデナフィル、またはチオメチソシルデナフィルからなる群から選択される、請求項 1 から 15 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 17】

前記 5 型ホスホジエステラーゼ阻害剤がシルデナフィルである、請求項 1 から 15 のいずれか一項に記載の組成物。